

## 初等・中等教育における日本語教育

## 1. 学制「再」改革

ポーランドの初等・中等教育界はいま大きな節目を迎えている。八年制小学校と四年制高等学校から成っていた旧学制を六三三制に変え「中学校」を新設したのが 1999 年の学制改革。それから 20 年たって、その「中学校」を廃止し昔の八四制に戻そうというのが 2017 年からの学制「再」改革である。

そもそも 1999 年の学制改革は、学校制度の近代化と EU 諸国の教育モデルとを意識して導入されたのだが、専門家によれば、近年増加する若者の攻撃的言動、学力の低下は「中学校」の存在と無関係でないという。それは、「中学校」へ進学して、慣れ親しんだ学習方法、友人関係などの連続性を断たれた「中学生」が不安定な状態に投げ出されるからだというのだ。そうしたリスクから若者を守ろうというのが「再」改革の主眼らしい。

2017 年 1 月に学制改革法案が成立すると、もうその年の秋(2017/18 年度)には「中学校」への新入学が停止された。「中学校」一年生になるはずだった生徒は、新制小学校の七年生となった。その後も年々「再」改革は進行し、今年度「最後の中学生」が高校一年になって「中学校」は姿を消した。

## 2. 日本語教育プログラム

「中学校」の消滅で一応の区切りはついたものの、改革はまだ続いている。というのも、今年度の高校一年には、「最後の中学生」と新制小学校の卒業生とが同じ一年にいるのだ。しかも、前者は三年で卒業し、後者は四年後に卒業する。教師は、同じ学年に同じ教科を教えていても、二つの「教育プログラム」を用意して教え分けなければならない。

ポーランドの初等・中等教育機関で学習される正規科目には、国民教育省の定める「教育プログラムの基本に関する省令」(日本の「学習指導要領」に相当するが、より法的拘束力が強い)に適合した「教育プログラム」を必ず作成しなければならない。

私も高校で日本語を教え始めたとき、最初の仕事は A4 で 50 頁以上にもなる「日本語教育プログラム」を書くことだった。そして今年度も、四年制高校のために「省令」が改正され、新しい「日本語教育プログラム」を書かなければならなかった。

日本語は「省令」中の「近代外国語」に分類されるが、「省令」は主にヨーロッパ諸語を想定している。だから例えば「省令」の「要求事項」には、「生徒は

簡単な発話が理解できる」と「生徒は簡単な文章が理解できる」がさらっと並んで出てきて、「発話」と「文章」の間に大きな溝など考えられていない。

## 3. Haiku コンクール

ただ、「発話」と「文章」の溝を問題にしないのは、高校生たちも同じだ。時にこちらの心が洗われるほどの純粹さで、どんどん知識を吸収していく。

だからそんな彼らのために、私のクラスでは通常の日本語の授業とは別に、日本文化を肌で体験できるイベントも毎年企画している。浴衣の着付け、書初め展覧会…そして今年は「Haiku—日本の詩形」コンクールを開催した。

冬または春に季題を取ったポーランド語の五七五。応募数は 26 句。どれも高校生らしい瑞々しさと一途さに溢れている。その中で、以下に載せた三句は、透明感ある眼差しと絶妙な措辞とで特に目を引いた入賞句である。

(つだ・てるみち、ポズナン市エスコラピオス会  
聖ヨゼフ・カラサンス高等学校 日本語教員)

Liceum Ogólnokształcące Zakonu Pijarów  
im. św. Józefa Kalasancjusza w Poznaniu  
“Haiku - poezja japońska”コンクール入賞句  
(日本語訳 津田晃岐)

dzieci na dworze	外に子ら
gra, robią psikusy	遊びお悪戯(いた)し
prima aprilis	四月馬鹿

Magdalena Frąckowiak, 2B  
マグダレナ・フロンツコヴァク、2年B組

płatki śniegu	雪の片(ひら)
topnieje na policzku	頬に溶け——なに
dłaczego płaczesz?	泣いてるの?

Dominika Jopek, 1A po g  
ドミニカ・ヨペク、1年A組(三年制)

blask księżycowy	月明り
srebrzy śnieżne pola wsi	雪の畑へ
jak ziarno jasne	銀の種

Oliwia Wiśniewska, 1A po sp  
オリヴィア・ヴィシニェフスカ、1年A組(四年制)